

「新しい日本，平和な日本へ」
～戦後の復興と共にあった“食（広島のスウルフードお好み焼き）”～

1 単元について

（1）単元観

本単元は，小学校学習指導要領社会の第6学年の内容

（2）我が国の歴史上の主な事象について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際，我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに，大まかな歴史を理解するとともに，関連する先人の業績，優れた文化遺産を理解すること。

（サ）日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し，国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）世の中の様子，人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して，我が国の歴史上の主な事象を捉え，我が国の歴史の展開を考えるとともに，歴史を学ぶ意味を考え，表現すること。

を受けて設定した。

本単元は，我が国は，長年に渡る戦争で多くの犠牲を払い，人々は苦しい生活に耐えてきた。原子爆弾が投下され，そして，敗戦という状況の中，人々は明日の食べ物にも苦勞する生活を強いられた。しかし，戦後，我が国は驚異的な発展を遂げる。

本単元では，食糧難など厳しい生活が続く中，必死に生きてきた先人の工夫や努力を考えることを通して，我が国が民主的な国家として再出発し，国民生活が向上し，国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解し，将来の国家及び社会の発展について考え，そのために自分たちが関与していこうとする態度を培いたい。

（2）児童観

本学級の児童は，これまでの「歴史と人々の生活」の学習で，我が国は各時代において様々な問題の克服や人々の願いの実現に向けて努力した先人の働きによって発展してきたことを学習している。「長く続いた戦争と人々の暮らし」では，戦争の経緯や背景について理解し，国民生活にも大きな影響を及ぼしたことを学習した。そして，戦争の悲惨さや人々の苦勞について自分なりに感じ取り，当時の人々の思いに迫ることができた。

一方，これまでの学習の様子から「複数の歴史上の事象を関連させて考え，歴史の展開を捉えまとめる」ことには課題がある。歴史上の事象を大きな流れの中で捉えることが難しいこと，表現力が定着していないことが原因だと考える。さらに，今日の自分たちの生活や社会の課題に，歴史から学んだことを関連付けて考えようとする見方・考え方も養っていききたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、次の3点を手立てとして進めていく。

①資料提示の工夫により問いを引き出す

児童から問いを引き出し解決すべき点を明確にすることで、歴史上の事象を大きな流れの中で捉えることができるようにする。そのために導入での資料提示を工夫する。

②タブレット型端末を活用し歴史の展開をまとめる

歴史の展開をまとめるために必要な資料や情報、言葉などをロイロノートのテキストでつなげることで、複数の歴史上の事象を関連させながら考えられるようにする。

③食育「食文化」との関連

「一銭洋食」にはじまり、戦後、人々の空腹を紛らわし戦後の復興と共にあった広島県民のソウルフード「お好み焼き」に焦点を当て、人々の復興への思いを「食」への工夫や努力から考えさせることで、その後の我が国の発展についての理解を深めることができるようにする。「食」の視点で考えることは、学習したことを今日の自分たちの生活や社会と関連付け、豊かに生きたいという願いやそのためによりよい社会を築いていきたいという思いを育むという点でも有効だと考える。単元後には「食」の視点での振り返りを行うと共に、広島の復興と併せて「お好み焼き」の歴史を重ねてまとめ、「食育ノート」としてタブレット型端末に保存・蓄積することで、今後の学習や生活に生かすことができるようにする。

2 単元の目標

- (1) 第二次世界大戦後、我が国は民主的な国家として再出発し、国民の努力と工夫により国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解することができる。
- (2) 第二次世界大戦後、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや我が国が国際社会において果たしてきた役割について、当時の世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して考えたり、表現したりすることができる。
- (3) 第二次世界大戦、後の我が国の政治や国民生活の変遷や国際社会での役割などについて、主体的に考え表現し、また、学んだことを現在の生活や社会の課題に関連付けて考えようとすることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①戦後の世の中の様子、人物の働き、代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。	①世の中の様子、人物の働き、代表的な文化遺産などに着目して「問い」を見いだして考え、考えをまとめて表現している。 ②我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考えたり、学習してきたことを基に歴史を学ぶ意味について考えたりして、自分の考えを根拠や理由を示しながら適切に表現している。	①第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、「問い」を追究し、解決しようとしている。 ②学習してきたことを基に過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えようとしている。

4 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	ねらい・学習活動	評 価	
			重 点	評価規準 (評価方法)
一 次	1	・終戦直後の資料を手掛かりにして、学習課題をたてる。	主	主①（発言・振り返り）
	2 本	・戦後のくらしの知恵や工夫から、人々の復興への思いを考える。	思	思①（ワークシート）
二 次	3	・戦後改革や日本国憲法について理解する。	知	知①（ワークシート）
	4	・「サンフランシスコ平和条約」「国際連合への加盟」「産業の復興」について理解する。	知	知①（ワークシート）
	5	・東京オリンピック・パラリンピック開催による、国民生活の変化について理解する。	知	知②（ワークシート）
	6	・東京オリンピック・パラリンピック後の課題と取組について理解する。	知	知②（ワークシート）
	7	・国際社会の中で、日本が抱える課題や果たすべき役割について考える。	思	思①（ワークシート）
三 次	8	・調べたことを根拠に、戦後の日本の変化について自分の考えをまとめる。	思	思②（ワークシート）
	9	・学習内容の理解を確認する。 ・単元の振り返りをする。	知 主	知①②（評価テスト） 主②（振り返り）

5 本時の学習

（1）本時の目標

第二次世界大戦直後の厳しい生活が強いられる中、必死に生きていこうとしていた人々の工夫や努力から復興への思いについて考えることができる。【思考力・判断力・表現力等】

（2）食育の視点

第二次世界大戦後に広島で生まれ育った食文化や、当時の食生活に関心をもち、厳しいくらしの中でも復興を目指した人々の思いを考えることができる。【食文化】

（3）学習の展開（2／9時間）

	学習活動	発問（発）指導上の留意点（◇） 予想される生徒の反応（・）補足（＊） （◆「努力を要する」状況と判断される 児童生徒への手だて）		評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
		T1	T2	
つなげる	1 写真から終戦直後の広島の人々の暮らしを捉え、気づきを発表する。	◇写真から、終戦直後の人々のくらしに目を向けさせる。 ・家が簡単な建物だ。 ・外で勉強している。 ・屋台みたいところで買い物をしている。 ・よく暮らしているな。 ・暮らしやすいところに引っ越せばいいのに。	◇終戦直後の広島の写真を提示する。 ＊戦後75年は草木が生えないと言われていた。	

	2 終戦直後と 10 年後の広島の写真比べ、復興が進んでいることを捉え、学習のめあてをたてる。	◇ 2 枚の写真と比較させ、広島復興を捉えさせる。 発 2 枚の写真比べて、どう思いましたか。 ・ たった 10 年で町ができている。すごい。 ・ 普通の生活がもどってきている。 発 戦後 10 年で、ここまで復興することのできた原動力は何だろう。 ・ 広島の人々の強い思いがあったから。 ・ 人々が助け合ったから。 ・ 技術が進歩したから。	◇ 10 年後の広島の写真提示する。 ＊ 6 年後には広島国体、13 年後には 100m 道路で復興大博覧会も開かれたことを伝える。 ◇ 児童の発言から、復興の原動力は人々の思いであり、衣食住すべてがない状況を克服し復興していった人々の工夫と努力を「食」を通して考えるよう呼びかける。	
「食」を通して、どのような工夫や願いをもって復興を目指したのだろうか。				
見通す	3 厳しい食糧難を人々が工夫と努力で乗り切っていたことから、苦しい生活を克服しようとする人々の思いを考える。 4 「食」への工夫に込められた人々の思いを考える。	発 どうして「一銭洋食」が作られたのだろう。 ・ 小麦粉 ・ 野菜 ・ 鉄板 ・ 場所 ・ 作る人等 発 もし、この当時の一銭洋食屋の店主だったら、当時の状況を想像し、どのような工夫をするだろう。 ・ もっとおいしくするため他の具材を入れる。 ・ 周りの人と助け合い材料を調達する。	◇ 広島県民にとって身近なお好み焼きの写真と、お好み焼きの原型となった「一銭洋食」の写真を見せ 2 つを見比べさせ、「おやつ」から「主食」に変化していったことを理解させる。 ◇ 当時手に入ったものは、わずかな材料（配給、アメリカからの救援物資、身近なところをとれるわずかな野菜等）、調理器具（軍需工場から残った鉄板）、小さな台所（露店）、作る人（女性がメイン、男性は軍人として派遣、または復興のため他の仕事に従事）であったことを理解させる。 ◇ 一銭洋食を試食させる。	

		発 なぜ、女性の呼び名を店の名前にするようになったのだろう。 ・店主が女性だから ・夫が戦死したから ◇タブレット型端末を活用し、「お好み焼きの歴史」を紹介する。	◇「〇〇ちゃん」の看板の写真を提示する。 *店主の女性の、戦地から帰ってくる夫の目印にしたい、残された子どもを自分が守るという決意などの思いが込められていることも知らせる。	
考える ↓ 深める	5 「お好み焼き」が広島のスウルフードになった理由を個々に考え、全体で交流する。	◇「一銭洋食」と「お好み焼き」、「終戦直後の街」と「10年後(及び現在)の街」を対比させ、その過程にある人々の復興への思いや工夫や努力を考えさせる。 ◇歴史年表を活用し、復興の実際と食との関係を気づかせる。 発 どうして「お好み焼き」が広島県民のスウルフードになったのだろう。 ◆ 使うと良い言葉に印をつけ、まとめる内容を方向づける。	◇写真提示 「一銭洋食」「お好み焼き」「終戦直後の街」「10年後(及び現在)の街」	広島でお好み焼きがスウルフードになったことについて「問い」を見だし考え、考えをまとめて表現している。 【思・判・表①】(ワークシート)
	児童の記述例 ・鉄板があったから、当時手に入ったもので工夫し続けた結果、今のお好み焼きになった。 ・厳しい状況の食糧事情でもバランスを考えた。 ・厳しい生活でも絶対に今のあきらめないという気持ちだった。 ・もとの生活に戻るまでこのお好み焼きを食べてがんばろうと思っていた。 ・残された者でお好み焼きと共に広島の街を復活させたいと思って頑張った。 ・もっとおいしいお好み焼きが食べたいという気持ちがエネルギーになった。			
			◇広島だけではなく、各地には復興に向けた人々の思いは、食の工夫にもつながっていることを知らせる。	
振り返る	6 本時の学習を振り返る。	◇ 学習前の自分と学習後の自分を比較して振り返らせる。		

6 板書計画

